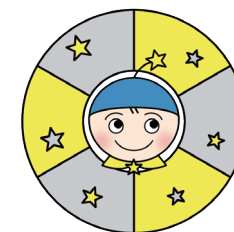


Let's try!

園内研修・公開保育



よこはま☆保育・教育宣言

「やってみたい！」から始めよう
明日の保育がワクワクする

「よこはま☆保育・教育宣言
～乳幼児の心もちを大切に～」

を基本とした園内研修・公開保育の提案です

令和6年3月
横浜市こども青少年局
保育・教育支援課 人材育成係

はじめに

皆さんの園では、園内研修・公開保育を実施していますか？

園内研修とは、園内で実施する研修のことです。また、公開保育とは、日常の保育を園外の保育者に向けて公開する（園を開く）ことを言います。どちらも実施することで保育者の専門的知識・技術を習得したり、相互理解を深めたりすることができ、保育の質の向上につながります。

しかしながら、保育現場からは「やり方がわからない」「日々の保育に精一杯で時間がない」という声が聞こえてきます。このような園が「これならできる」と取り組みのきっかけとしていただけることを目的としてこのブックレットを作成しました。

まずは真似ることから始めてみてはいかがでしょうか。このブックレットには「よこはま☆保育・教育宣言」を基本とした保育・教育施設の園内研修や公開保育の事例がたっぷり詰まっています。ぜひご参考にいただき、自園でも実践してみてください。

実践することで「よこはま☆保育・教育宣言」をより理解し、日々の保育の中で子どものよさや可能性に気づいたり、職員同士で保育を共有することができます。きっと明日の保育がもっと楽しくなるはずです！

最後に本ブックレットの制作にあたり監修を快くお引き受けいただきました玉川大学の大豆生田先生、そして協力園の皆様にご心より感謝申し上げます。

令和6年3月
横浜市子ども青少年局
保育・教育支援課 人材育成係

ブックレット作成に 関わってくださった皆様

(敬称略)

- ◆ 監修者
玉川大学教授 大豆生田啓友
- ◆ 事例提供園
学校法人渡辺学園 ゆうゆうのもり幼保園（横浜市 都筑区）
社会福祉法人小桜会 中川小桜愛児園（横浜市 都筑区）
横浜市芦穂崎保育園（横浜市 鶴見区）
横浜市釜利谷保育園（横浜市 金沢区）
横浜市太尾保育園（横浜市 港北区）
横浜市鴨居保育園（横浜市 緑区）
横浜市茅ヶ崎南保育園（横浜市 都筑区）
- ◆ 「よこはま☆保育・教育宣言～乳幼児の心もちを大切に～」運用協議会
白梅学園大学大学院名誉教授 無藤隆
玉川大学教授 大豆生田啓友
横浜市私立保育園こども園園長会 大庭良治
横浜市社会福祉協議会 佐野健一
横浜市幼稚園協会 清水純也
小規模保育事業 中陳亜希子
横浜市社会福祉協議会 松原慶子
横浜市幼稚園協会 渡邊英則
横浜市立小学校長会 中山光恵
横浜市立保育士責任職会 鍋田桂子
- ◆ 「よこはま☆保育・教育宣言～乳幼児の心もちを大切に～」運用検討会
横浜市幼稚園協会 橋木元生
横浜市幼稚園協会 櫻井つた江
横浜市社会福祉協議会 白石玲子
小規模保育事業 中陳亜希子
横浜市私立保育園こども園園長会 吉岡善美
横浜市幼稚園協会 渡邊英則
横浜市立保育士責任職会 鍋田桂子
- ◆ 編集・発行
横浜市子ども青少年局保育・教育支援課 人材育成係
野澤裕美 渡辺由美 古林直樹 丸井卓 野澤友美 田中紀子 成勢祐美子
飯鷹勝也 村越渉太 北山曜子 豊永満恵 前田朋子 横山裕子 他 みなさま

園内研修・公開保育の参考に


相談してみよう


園内研修・公開保育をやってみたい。園に訪問して、一緒にコーディネートしてほしい！


このブックレットを読んで、やってみたい園内研修・公開保育がある！！

公開保育しようと思うけど、どうやって地域の園に声をかけようかな？

新設園なので、園内研修を立案から教えて欲しい！

 Yサポ
(横浜市保育の質向上サポーター)
横浜市の保育・教育の質向上を推進することを目的として地域の園に出向き、園内研修や公開保育を援助・コーディネートしています。

 ネットワーク専任保育士
市立保育所に配置され、地域の「つなぎ役」となって、保育・教育施設全体の質の向上に取り組む役割を担っています。

 園内研修・研究サポーター
新設園にむけて、園長経験者が園内研修の立案をサポート、アドバイスする制度です。

お問い合わせ _____ こども青少年局保育・教育支援課
kd-jinzai@city.yokohama.lg.jp

参考にしてみよう



「よこはま☆保育・教育宣言 ～乳幼児の心もちを大切に～」
横浜市（2020）
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kosodate-kyoiku/hoiku-yoji/shisetsu/shisetsutaisaku/shitukoujou/sengen-ikenbosyuu.html>
宣言の内容や宣言を使った園内研修の動画も紹介しています。



「横浜版接続期カリキュラム実践事例集（第9集）」
横浜市（2024）
「接続期カリキュラム」の推進に向けて幼保小の実践をしています。
横浜市庁舎3階市政刊行物・グッズ販売 コーナーで販売 ¥500

目次

- ◆ はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ◆ 目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ◆ よこはま☆保育・教育宣言・・・・・・・・ 3
- ◆ 大豆生田先生よりみなさまへ
「保育者の高い専門性と質を高めるために」・・・・ 4
- ◆ ブックレットの活用方法・・・・・・・・ 5
- ◆ 園内研修・公開保育の効果・・・・・・・・ 6
- ◆ 園内研修のすすめ（大豆生田先生）・・・・ 7
- ◆ やってみよう園内研修・・・・・・・・ 8
- ◆ Let's Try 園内研修
 - ① 「よこはま☆保育・教育宣言」を使った園内研修・・・・ 9
 - ② 安心の場で保育を語ることを大切にしたい園内研修・・・・ 11
 - ③ 「オープンに話し合おう！」対話型園内研修・・・・ 13
 - ④ 園内の保育者に保育を開く、園内公開保育・・・・ 15
- ◆ 公開保育のすすめ（大豆生田先生）・・・・ 17
- ◆ やってみよう公開保育・・・・・・・・ 18
- ◆ Let's Try 公開保育
 - ① 「保育を語り合おう」対話型公開保育・・・・ 19
 - ② ベストショットを取り入れた公開保育・・・・ 21
 - ③ ドキュメンテーションをツールとした公開保育・・・・ 23
- ◆ 園内研修・公開保育の参考に・・・・・・・・ 25
- ◆ ブックレット作成に関わってくださった皆様・・・・ 26



よこはま☆保育・教育宣言

＜共有したい子どもの姿・方向性＞
 ～今と未来を生きる子どもを育みます～

宣言1

安心できる環境をつくり、一人ひとりを大切に保育します

1. 安心感・信頼感を大切に、子どもを守ります。
2. 子ども一人ひとりを受け止めます。
3. 子どもが様々な人と関わることを大切にします。

宣言2

子どもの育ちと学びを支える主体的な遊びを大切にします

1. 乳幼児期の子どもが、豊かで多様な環境と関わりながら育つことを大切にします。
2. 夢中になって遊びこむことによる育ちを大切にします。
3. 保育者の重要な仕事は一人ひとりの子どものよさを発見し、育てることです。

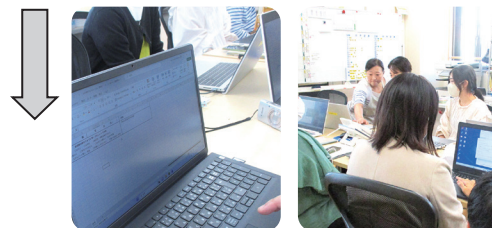
幼保小の連携

乳幼児期の育ちと学びを受け止め、小学校以降の教育につなげます

- 乳幼児期の「学びの芽生え」は、小学校低学年の「自覚的な学び」の基盤になります。
- 保育・教育施設と小学校とが顔の見える関係を築き、円滑な接続につなげます。



ドキュメンテーション作り



Point3

園のフォーマットを利用し
 簡単で取り組みやすく！

1から作るのではなく、園が使っているフォーマットに写真を入れてもらい、コメントは手書きにしました。そうすることで、初めて作成する人でも簡単に作ることができます。

ドキュメンテーションで対話



Point4

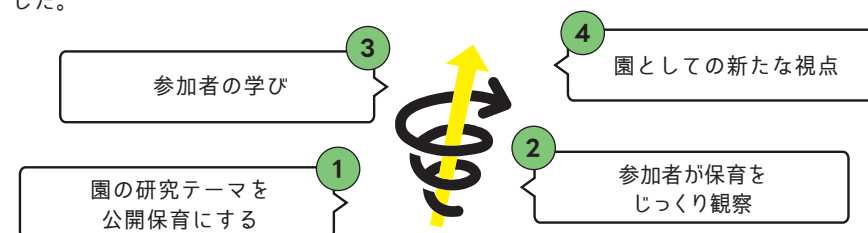
印象的な場面が明確になる

スクリーンに参加者が作成したドキュメンテーションを順番に映しながら、その日の印象に残った場面を話してもらいます。ドキュメンテーションをツールとしたことで、なぜこの場面に注目し、どうして印象に残ったのかを参加者は明確に伝えることができました。また、実施園にとっても、参加者が作ったドキュメンテーションは新たな視点を示してくれました。これは終了後に保護者にも掲示しました。



ドキュメンテーションをツールとした公開保育の効果

園の研究テーマを公開保育と関連させることで、園にとって新たな視点からドキュメンテーションを考えることができました。また、参加者もドキュメンテーションを作ることで、より保育をじっくりと観察し、印象に残った場面を明確に伝えることなど学びにつながりました。園、参加者、両者にとってメリットとなる公開保育となりました。



Let's try! /
公開保育

3 ドキュメンテーションをツールとした
公開保育
社会福祉法人小桜会 中川小桜愛児園（横浜市都筑区）

はじまり

Point1

園の研究を公開保育のテーマにする

ある保育者がこども青少年局の「園内研修リーダーフォローアップ研修」に参加し、公開保育を行うことになりました。自園では、「保護者にわかりやすいドキュメンテーションとは？」をテーマに1年間研究しており、これを公開保育のテーマにしました。そうすることで園としても公開保育の参加者から新たな視点をもらえるチャンスになる！と考えました。

オリエンテーション



1日の流れを説明します。
また、ドキュメンテーションは写真を4～5枚選んで作ってもらいます。



公開保育を見学しながら撮影

Point2

保育をじっくりと観察



参加者は保育を見学しながら園の用意したスマホやデジカメで子どもの様子を撮影していきます。自身の視点で心動かされた場面を写真に収めています。参加者からは「ドキュメンテーションを作るというミッションがあると、この子は何を考えているのかな？」といつもよりじっくり観察できました」との声も聞かれました。

大豆生田先生よりみなさまへ



「保育者の高い専門性と
質を高めるために」

玉川大学
大豆生田啓友

こども家庭庁が誕生し、こども基本法が制定され、日本は「こどもまんなか」社会を目指して様々な取り組みがなされています。その重要な役割の1つを担っているのが保育です。乳幼児期からの健やかな育ちを保障することは将来のウェルビーイングにつながるものであり、保育は家庭や地域と共にその育ちを支える拠点となります。そのため、質の高い保育がすべての園で求められるのです。

横浜市では、「よこはま☆保育・教育宣言」を作成し、すべての園で、すべての子どもに対して、豊かな保育の質を確保することを宣言しています。これは、全国に先駆けた画期的な取り組みと言えます。宣言にもあるように一人ひとりが安心できる環境を保障すること、および子ども主体の遊びを通じた豊かな育ちや学びを保障することがとても重要です。そして、そのような保育を保障するためには、保育者の高い専門性と質を高めるための園内の体制が必要不可欠となります。

そこで横浜市では、その一助となるべく、研修体制の充実に加え、園内研修および公開保育を通して保育の質を高めるためのガイドラインとなるこのブックレットを作成しました。具体的な実践事例をもとに、実際の写真を豊かに用いて、どこの園でも手軽にやってみようと思えるような内容となっています。このブックレットを参考にいただき、ワクワクするような園内研修や公開保育の参考にいただければ幸いです。

ブックレットの活用方法

活用1

園内研修のすすめ・公開保育のすすめ

大豆生田先生が園内研修や公開保育とはどのようなものか、そして、どのような効果があるのかについてわかりやすく説明してくださっています。

活用2

やってみよう園内研修・公開保育

園内研修・公開保育のポイントを記しています。そのまま園内研修・公開保育の当日にみなさんと共有していただくこともできます！このシートを使って、まずは心構えや場づくりから始めましょう。

活用3

Let's Try！園内研修・公開保育（事例紹介）

1 事例の掲載順

事例は、比較的取り組みやすいものから順に紹介しています。初めてチャレンジするという園は最初の事例から取り組んでみてはいかがでしょうか。

2 「はじめり」の部分をよんでみよう！

まず「はじめり」を読んでみましょう。各園の園内研修・公開保育を行った「動機」となる部分です。ひよっとするとあなたの園と同じような課題があるかもしれませんね。

3 Pointをおさえよう！

Point

Point

吹き出しに注目！！園内研修・公開保育の各園のこだわりや工夫などを示しています。参加を促進したり、継続させたりするためのヒントとなります。

4 「効果」について考えよう！

園内研修・公開保育を行うことで、園や保育者にとってどのような効果があるのかについてまとめています。「自園にとってはどうかな？」という視点におきかえて考えてみてはいかがでしょうか。

対話（振り返り）

Point3

ベストショットで語り合い



ベストショットを選び、その場面について語ります。写真があることで、その時のこどもの姿や保育者の関わりをより具体的に伝えることができました。また、全員の注目が写真に集まるので発表者も緊張することなく自然体で話すことができました。

対話が広がる仕掛け

Point4

場づくりを大切に

参加者全員が緊張することなく、リラックスして対話できるように、場づくりを大切にしています。



写真をつかった公開保育の効果

公開保育に写真を取り入れることで、参加者は「面白い」「素敵だな」と感じた子どもの姿や保育者の関わりを具体的に伝えることができました。また、自分たちが体験した感動的な瞬間を全員で共有することができました。偶然にも同じ場面を撮影した保育者がいましたがそれぞれ異なる視点で捉えており、保育を多角的に見ることもつながりました。

対話を促進する場づくり

多角的な視点

面白さ、素敵さの発信

参加者との共有

2 ベストショットを取り入れた公開保育

横浜市釜利谷保育園（横浜市金沢区）

はじまり

保育の中で、子どもや保育者の姿が「面白い」や「素敵だな」と感じる瞬間があります。これらの瞬間を公開保育で、言葉だけでなく、より具体的に伝えるためにはどうしたらよいのか？そこで、参加者に感動的な瞬間を写真に収めてもらい、その中から最高の一枚「ベストショット」を選び、それを基に話し合うことにしました。



見てほしい



Point1

主体的な保育者の姿

「ぜひこのクラスの子どもたちのかわいい姿を見てほしい！」と3歳児のクラスの担任が立候補しました。実はこのクラス、以前に1度、公開保育を行い、参加者から良い刺激やアドバイスをたくさんもらったことがあります。

公開保育当日

オリエンテーション

参加者が集合したら、まずオリエンテーションを行います。公開保育の1日のスケジュールやその日のねらいを伝えます。写真はたくさんとった中でベストショット1枚を決めてもらいます。

ようこそ公開保育へ
本日のプログラム・・・

ねらい

- ・他園の保育を知り、自分の保育を振り返る。
- ・新たな発見や気づきを自分のものとし、明日の保育に生かす。
- ・職員間の交流の機会とする。

1. オリエンテーション
2. 園内見学
3. 保育の見学 (自分の気に入った場面 素敵な場面、いいなと思った場面を写真に取ってください)
4. 休憩 (この時間で自分のベストショット写真1枚を決めてください!)
5. 振り返り (保育の振り返りを沢山楽しみましょう)
6. アンケート記入

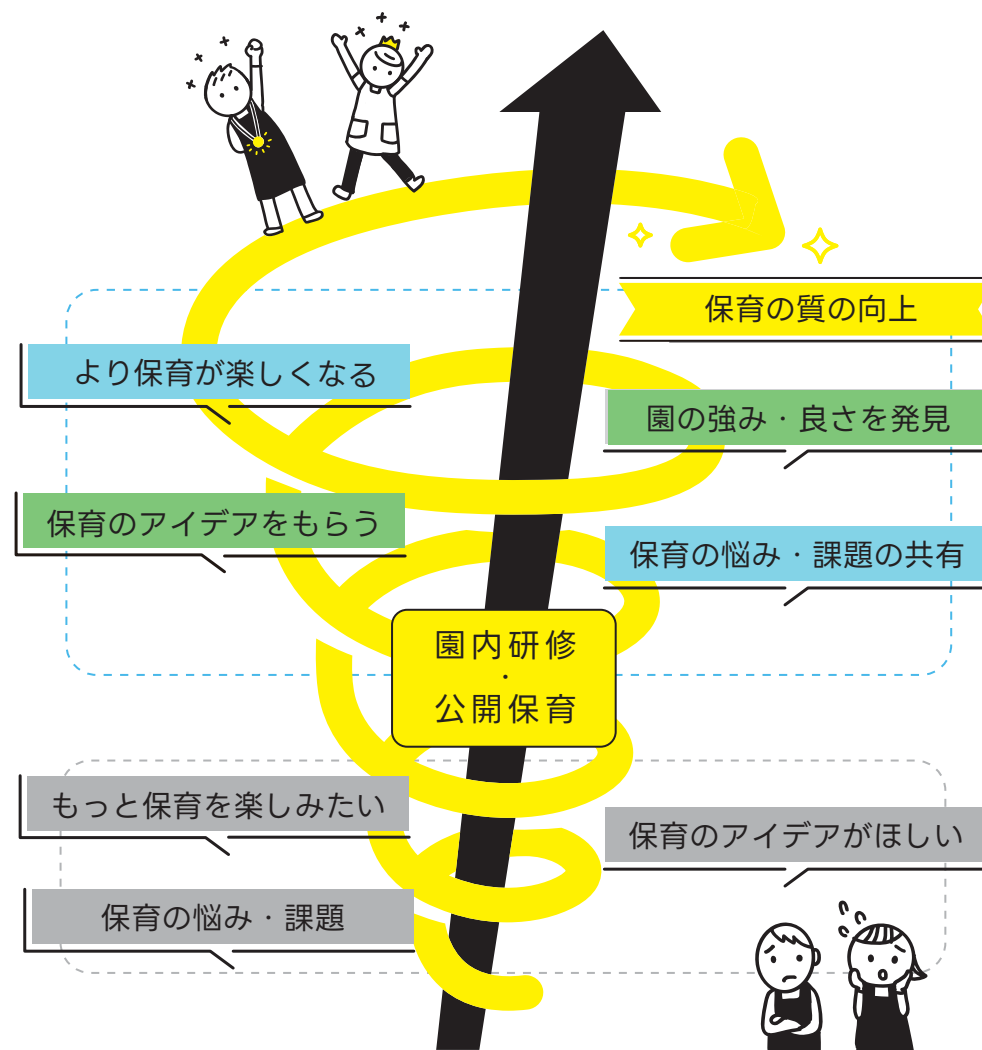
保育見学

Point2 カメラの活用

園で用意したカメラをもって保育を見学します。どの場面を共有したいか、参加者は考えながら写真を撮ります。



園内研修・公開保育の効果



園内研修・公開保育を行い、子どもの姿を語り合うことで保育がもっと楽しく感じられたり、気づけなかった保育の面白さを感じたりすることができます。

園内研修のすすめ

園内研修と聞いてみなさんはどのようなイメージを思い浮かべるでしょうか。もしかすると、何か堅苦しい印象を持っている方もいるかもしれません。また、何か自分の保育の仕方に対してダメだされてしまうようなネガティブなイメージを持っている方もいるかもしれません。でも、本来、園内研修は、明日の保育がワクワクすることにつながる大切なのです。それは、子どもの姿を語り合ったり、「〇〇ちゃん、きっとこんな思いだったのかもしれない」なんて発見につながることもあるでしょう。また、「いま、子どもたち、こんな姿があったから、今度、こんな環境を用意してみたい」なんてことにつながることもあるかもしれません。そんな園内研修だったら、同僚との語り合いがワクワクし、もっと保育が楽しくなり、結果的に保育の質向上につながるのです。園内研修のやり方のヒントを探っていただければと思います。

大豆生田啓友



対話（振り返り）



Point2

ファシリテーター

プロジェクトメンバーがファシリテーターとしてグループに入り対話を進めます。公開保育に初めて参加した保育者も安心して発言することができます。

Point3

話し合いを可視化

参加者は赤い付箋には「気づいたこと」、青い付箋には「質問」を書きます。色別の付箋を使うことで対話を可視化し参加者も意見を出しやすくなりました。



Point4

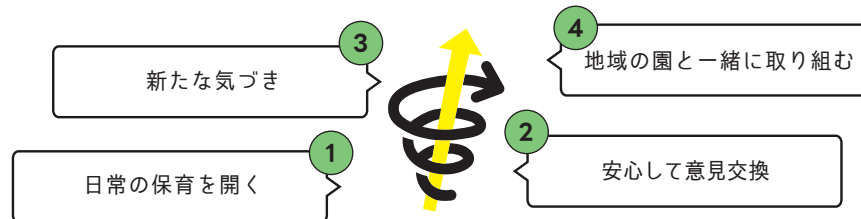
新たな気づき

グループごとの対話の内容を参加者全員で共有します。お互いに共有することで、新たな気づきを得ることができます。

全体共有

対話型公開保育の効果

特別な準備をすることなく、日ごろの保育を公開します。保育見学後には当日の保育の振り返りを行い「この場面がよかったね」「ここはどんな工夫をしているの」など活発な対話が行われました。初めて参加する保育者も安心して意見交換できるのはファシリテーターの存在が大きいと感じています。今後も身近な地域の園と一緒に取り組んでいきたいです。



1 「保育を語り合おう」対話型公開保育

横浜市芦穂崎保育園（横浜市鶴見区）

はじまり

「保育を開き、お互いに伝えあいたい」「広い視野をもちたい」と公開保育をはじめました。区内の園から参加者を募ります。公開保育だからといって構えず日ごろの保育を見せ合うことを大切にしています。参加者も実施者も取り組みやすく継続していきやすい公開保育を目指します。

公開保育プロジェクト



公開保育を実施している鶴見区の市立保育所4園から1名ずつの保育者がプロジェクトメンバーとなり、企画、実施、振り返りを行っています。また、当日の司会やファシリテーターも務めています。プロジェクトメンバーが中心となって進めることで、初めての園も参加しやすくなりました。

公開保育当日

オリエンテーション



Point1

ドキュメンテーションを掲示

オリエンテーションでは、スケジュールについて説明したり、特に保育で大切にしているところを話します。また、ドキュメンテーションや写真を掲示し、これまでの保育の様子を視覚的にも伝えました。

保育見学

参加者は子どもの遊んでいる姿やつぶやき、保育者の援助や言葉かけ、環境設定などに注目して保育を見学します。また、必要に応じてメモを書き留めています。



やってみよう園内研修

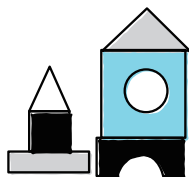


Let's try! /
園内研修

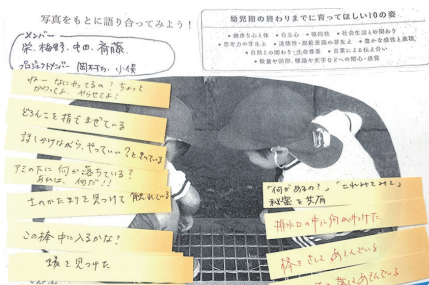
1 「よこはま☆保育・教育宣言」を使った
園内研修
横浜市鴨居保育園（横浜市緑区）

はじまり

「気軽に普段の保育の様子を話したい」「よこはま☆保育・教育宣言を理解したい」「どちらも可能な園内研修を！」とスタートしたのが、この「保育を語り合うの会」です。よこはま☆保育・教育宣言をテーマにクラスの子どもたちの様子や保育についての語りあいをしています。



「よこはま☆保育・教育宣言」の写真をつかったのワーク



Point1
そのままワークをやるみる

まずは「よこはま☆保育・教育宣言」のP3の「考えてみよう!」をそのまま使って、「10の中のどんな姿がみえるか」を話し合ってみました。

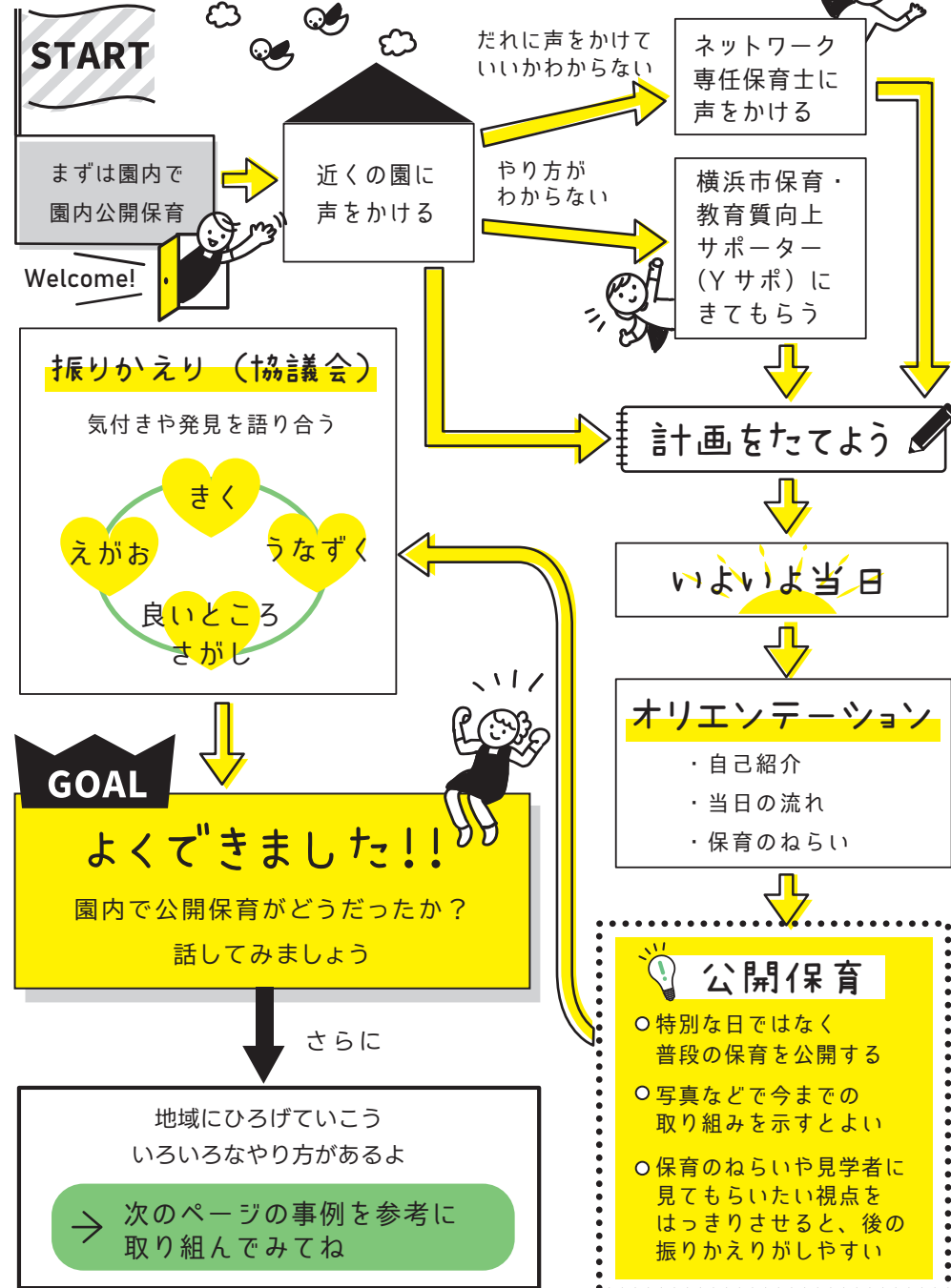
Point2
クラスの写真を用意する

クラスで対話をしながら写真を選ぶ

保育を語りあうことに慣れてきたところで、宣言2-1「乳幼児期の子どもが、豊かで多様な環境と関わりながら育つことを大切にします。」をテーマに語り合いました。各クラス、テーマにあう写真を選びます。選ぶことで「あの時こうだったよねー」など、保育の振り返りにもなっています。



やってみよう公開保育



公開保育のすすめ

みなさんは、公開保育ってどう思われますか？「公開保育なんてありえない！」「え、たくさんの人に自分の保育見られるんでしょ？」「できてないことだらけだし、ダメ出しされるのなんて、ツラすぎる！」「当日までの準備も大変そう！」なんて声が聞こえてきそうです。でも、それは違うのです。いまの公開保育はそんなハードルの高いものではありません。実際に公開保育を行った保育者の多くは、「意欲につながった」「自信が持てた」「元気になった」などなどの声が聞かれます。なぜでしょう？それは、何か準備してよいところを見せるのではなく、日常の保育を気軽に見せるやり方を推奨しているからです。そして、参加者は一緒に学ばせていただくという姿勢で参加するのです。参加者も子どもの姿からその子の内面や興味関心などを一緒に考えるので、お互いにたくさんの学びや気づきがあるのです。また、参加者は他園の保育から自分にはない保育の見方や考え方を学べる貴重な機会です。そんないいことづくめの公開保育。気軽に公開保育にチャレンジしてみましょう。



大豆生田啓友

• 保育を語り合おうの会



Point3

園の職員が誰でも参加！

「保育を語り合おうの会」は約1時間。雇用形態に関係なく誰でもその時に出席できる人が参加しています。自園の子どもたちの写真を使うことで、「よこはま☆保育・教育宣言」の内容をより身近に感じながら理解することができます。

Point4

• 保護者や他職員を巻き込んで

取組を掲示して、意見をもらう

終了後「保育を語り合おうの会」で出た意見を園内に掲示します。そうすることで、参加できなかった保育者はもちろん、保護者に向けて取り組みを紹介することができます。また、読んだ人がコメントを書き込めるシートも用意し、意見をもらいます。さまざまな人を園内研修に巻き込むことを意識しています。



「よこはま☆保育・教育宣言」を使った園内研修の効果

「保育を語り合おうの会」を行うために、各クラスで写真を選ぶことは、保育実践の振り返りや「よこはま☆保育・教育宣言」の理解につながりました。また、「保育を語り合おうの会」を実施することで、語りあいの風土が生まれ、新たな視点に気づくことができました。また、この様子を園内に掲示することで職員だけでなく、保護者も巻き込み園全体で保育を考えることにつながりました。

3 語りあうことで、新たな視点に気づく

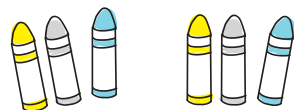
1 クラスの写真を選ぶことで保育の振り返り

4 園全体で保育を考える風土

2 「よこはま☆保育・教育宣言」の理解

2 安心の場で保育を語ることを大切にした
園内研修
学校法人渡辺学園 ゆうゆうのもり幼保園（横浜市都筑区）

はじまり



「保育を語り合いたい」毎日忙しいけれども、保育者が自身の言葉で子どもの姿やクラスの様子を語りあう時間が大切だと考え、意識的に時間（月1回1時間程度）を作り出しています。また、職員が安心して語り合うための場づくりや業務で作成しているドキュメンテーション、保育ウェブなどのツールの活用を積極的に取り入れています。

できるだけ参加しやすいように

Point1
ハイブリッド



多くの職員に参加してもらえるように、オンラインと対面のハイブリッドで行います。

まずは体をほぐそう！

体をほぐしてから始めます。この日はストレッチ。時には瞑想から始めることも！！まずは気持ちを整えます。



お茶をのみながら



Point2
リラックスした雰囲気です

お茶や軽食を食べながら行います。そうすることで緊張をほぐし、リラックスした雰囲気になります。もちろんオンラインの職員も同じようにしています。

付箋で意見交換

Point4
疑問点すべてに丁寧に答える

園内公開保育の感想や質問がたくさん集まりました。質問には0歳児担当がすべて答えました。そうすることにより、職員の理解が深まってきました。



Point5
職員が見やすいところに掲示

まとめた模造紙は、職員がいつでも見やすいように事務所に掲示しました。



最後は会議で決定

会議で園内公開保育の様子を共有し、メリット、デメリット、今後の見通しについて話し合いました。その結果、一人ひとりの食事に丁寧に向き合う保育を実施することが決まりました。

園内公開保育の効果

1人の保育者の「想い」がきっかけとなり、園内公開保育を行いました。これは、普段からあまりそのクラスに関わりのない保育者が、保育に触れる絶好の機会となりました。さらに、付箋を用いて意見を出すことで、全ての職員が問題を『自分事』として捉えることが可能となりました。これは、個々の疑問や困りごとを、職員が園の課題として捉え、考えていくプロセスとなりました。

「自分事」として捉える

園全体で考える

1人の保育者の「想い」

保育を知る機会



Let's try! /
園内研修

4 園内の保育者に保育を開く、園内公開保育

横浜市茅ヶ崎南保育園（横浜市都筑区）

はじまり

ある0歳児担任には「一人ひとりの食事に丁寧に向き合う保育がしたい」という想いがありました。クラスでやりくりして実施することを考えましたが、この想いを実現するにはプラス2名の職員の応援が必要でした。これには園全体の応援体制が整わないとスタートできません。どうしたら、職員の理解と協力が得られるか……。このように考えたことがはじまりでした。



まずはやってみよう



Point1

百間は一見に如かず！

0歳児担任は主任に相談しました。すると「百間は一見に如かず！みんなに食事の様子をみてもらおう」とアドバイスがありました。そこで、園内公開保育を実施しました。

Point2

日常の保育を公開する

多くの職員に見てもらえるように、園内公開保育の実施期間を1週間としました。日常の食事の場面を見てもらっただけなので、特別な準備は全くありません。

Point3

保育見学の良い機会となる

今まで0歳児クラスにかかわったことのない保育者も保育を見学するよい機会となりました。付箋を用意して、気づいたこと、疑問に思ったことを書き留めてもらいました。



内容を定める

Point3

ファシリテーターは順番に

若手もベテランもファシリテーターを担当します。話し合う内容については、主任とファシリテーターで毎回決めていきます。



対話を促進するための工夫

Point4

ThinkingTime（シンキングタイム）

保護者にお知らせしているドキュメンテーションを使って、クラスの話します。担任すべてがクラスの様子や子どもたちの成長を自身の言葉で語ります。途中、「こういった時、あなただったらどうしますか？3分で考えましょう」というThinking Time！があり、積極的な対話を促していました。



Point5

業務で作成している
ツールの活用

カリキュラムとして作成している保育ウェブを使って話しあうこともあります。



安心の場で保育を語る園内研修の効果

安心でリラックスできる雰囲気の中、さまざまな工夫を講じることで1人ひとりの保育者が自身の言葉で保育を語るができます。また、お互いの言葉に笑顔でうなずき、傾聴する姿勢がみられました。これは若手、ベテランなど経験の違いに関係なく率直に発言できる場づくりにつながりました。また、若手とベテラン保育者では感じ方が違うことがありますが、その違いがお互い刺激となり、新たな保育を生み出しています。

率直に発言できる風土

3

新たな保育を生み出す

4

安心でリラックスできる雰囲気、参加しやすい実施方法

1

業務で作成しているツールの活用

2



3 「オープンに話し合おう！」対話型園内研修

横浜市太尾保育園（横浜市港北区）

はじまり

「明日はどろんこの日と決めるのはおかしくない?」「子どもがやりたい時になぜできないの?」という声がある一方で「寒い日のどろんこは体調崩すんじゃない?」「夕方遊ぶと帰る靴が濡れる!」と子どもを心配する声も・・・。「じゃあ、オープンに話し合おう!」と対話型園内研修『どろんこ会議』がはじまりました。



プロジェクト発足

Point1 プロジェクトでアイデア出し

「忙しい毎日の中でどうやって時間を作るか?」立候補した6名のプロジェクトメンバーがクラスの状況や保育者たちの様子を出し合いながら、どのように話し合うかを考えました。

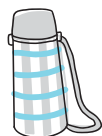


対話型園内研修「どろんこ会議」

保育者全員が参加できるように

- 1回20分ずつ、
- ①9時②10時25分
- ③13時④15時30分

さまざまな時間に『どろんこ会議』設定しました。どろんこ遊びの魅力や課題を出しあうことで、保育者それぞれの考え方を知る良い機会となりました。



課題解決

「夕方遊ぶと靴が濡れる」の課題は、水道を使いやすくする工夫や保護者に置き靴を用意してもらう、というどろんこ会議で出たアイデアで解決しました。課題は1つひとつ会議で話し合い解決しています。

Point2

課題は話し合いで解決!



発信「どろんこしんぶん」



Point3

保護者に発信

「どろんこしんぶん」を発行。保育者だけでなく保護者にも取り組みを発信しています。

対話型園内研修の効果

このような対話の機会をもつことで、さまざまな保育者の子どもへのまなざしを知ることができます。それは、保育者が自身の保育を見直すきっかけとなり、保育をもっと良くしたいという意識の芽生えに繋がりました。早速、園では第2回目の会議を開催。今度は「保育中のことばかけ」について話し合いました。これからも保育中の「あたりまえ」を職員みんなで見直していきます。

3 保育を良くしたいという意識の芽生え

4 園の保育の質向上

1 さまざまな保育者の考えを知る

2 自身の保育を見直す

